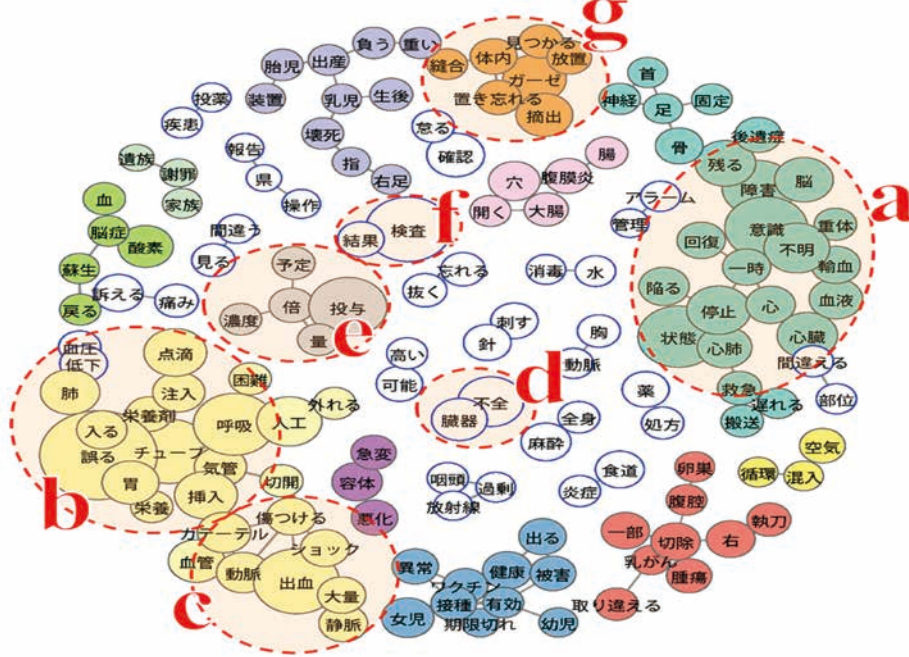


減災イノベーション (事例:医療事故ビッグデータ)

図1 医療事故ビッグデータの共起ネットワークによるクラスター分析



DATA

●主な連携先・メンバー

アソシエイツ：阿辻茂夫 関西大学総合情報学部教授 経営学博士・Ph.D/坂井貴行 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科教授 Ph.D/中西康文 弁理士・工学博士/野崎篤志 知財情報コンサルタント/藤本良介 システムデザイン

アドバイザー：Gerhard Chroust ウィーン工科大学名誉教授 Ph.D/安田謙 元京都大学附属病院 医学博士・Ph.D

京都発明協会専務理事 和田宏隆

●活動地域

関西圏及びオーストリア・スイス

●活動資金

無し(自己負担)

活動の目的

- 1 ビッグデータを用いた減災の為のシステムやイノベーションを研究する (図1 医療事故ビッグデータの共起ネットワークによるクラスター分析)
- 2 減災に関する知財のマッピングやマッチングを促進し、事業創造する (図2 事故発生グループ群別のICT減災プラットフォーム)

連携にいたる経緯

京都大学稲盛記念財団寄附講座(日置弘一郎教授主催)の経営哲学講座を起点に京都発明協会講演会や特許庁主催講習会などの専門家によって組織されたイノベーションの社会連携。KIRAS(オーストリア政府「災害抑止プログラム」)理事として得た最新研究を国内に紹介する。

活動内容

ICTを利用した減災システム、救難救護の為のレスキューネットワークや医療事故抑止の為のレジリエンス・マネジメントに向け活動している。特に、労働現場の危険や不便を改善する創意工夫・アイデアを公表し、新案・特許など知財の事業創造を通して、日本の地域社会の持続可能性に貢献する。

活動の成果

- 1 「JR鉄道事故抑止のGPS型ATS/ATC」経営情報学会や工業経営研究学会で企業に提案
- 2 Chroust, G. and Atsuj, S., "Resilience Management: from Fukushima Disaster to Boiling Oceans and Northward Viralspread", *ISSS Journals the 61th Meeting*, ISSS International Society for the Systems Sciences, Web-publishing, 2017, pp.1-20.
- 3 Atsuj, S., *Unsafey: Disaster Management, Organizational Accidents, and Crisis Sciences for Sustainability*, Springer, 2016.
URL: <http://www.springer.com/us/book/9784431559221>

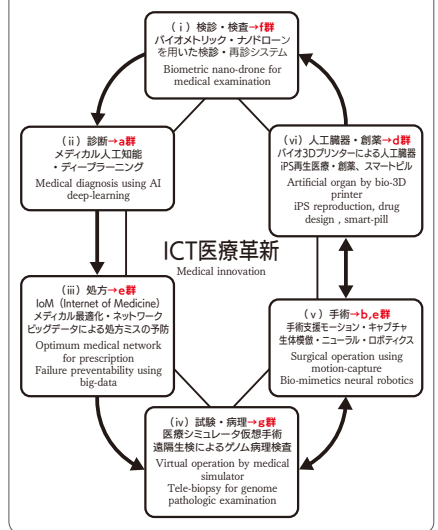
●教員紹介



総合情報学部 教授 阿辻 茂夫(あつじ しげお)

現代組織における意思決定の情報プロセスを中心に「組織知」のメカニズムを研究してきた。近未来の持続可能社会に向けて、事故や災害を抑止する「減災の為のマネジメント」のあり方について、他分野の専門家と社会連携を通してICT利用による学の実化を目指している。URL: <http://www.un-safety.net/index.html>

図2 事故発生グループ群別のICT減災プラットフォーム



今後の課題・目標

- 1 ICT利用による減災システムやレスキューネットワークの研究開発
- 2 労働現場での組織上の危険や不便を改善する創意工夫アイデアの可視化